

ライフドキュメント の継承へ

弘前大学人文社会科学部
地域未来創生センターフォーラム



ハンセン病の回復の方がたが暮らす全国13箇所の国立療養所は、超高齢化の時代を迎えている。たとえば青森市石江にある松丘保養園（1909年設立）の入所者は48名、平均年齢は88.9歳である（2023年4月現在）。将来にむけて日本のハンセン病問題および国立療養所の記録と記憶をどのように継承していくかが、喫緊の社会課題といえる。

本フォーラムは、療養所の「生活の記憶を継承する」ことをテーマに掲げる。療養所における生活記録（ライフドキュメント）から、われわれはどのようなことを読み取れるのか。また、生活記録といえるものの範囲はどこからどこまでなのか。そして、市民がそれらにアクセスできるミュージアム展示とはどのような可能性をもっているのか。これらの議論の端緒をつくるのが、このフォーラムの目的である。

白石 壮一郎（弘前大学）
岩谷 洋史（姫路獨協大学）
木村 直（東京藝術大学）
澤田 大介（国立療養所松丘保養園社会交流会館）
田原 範子（四天王寺大学）
廣瀬 俊介（風土形成事務所／東京大学）

2024年11月09日（土）13:00-17:00
会場 弘前大学人文社会科学部4階 多目的ホール

参加無料・事前申込み不要（どなたでもご参加いただけます！）
問い合わせ先 0172-39-3198（地域未来創生センター）
E-mail : irrc@hirosaki-u.ac.jp



国立療養所の
歴史化に際して